

多様性を力に変え未来を拓く

DEIB 推進宣言

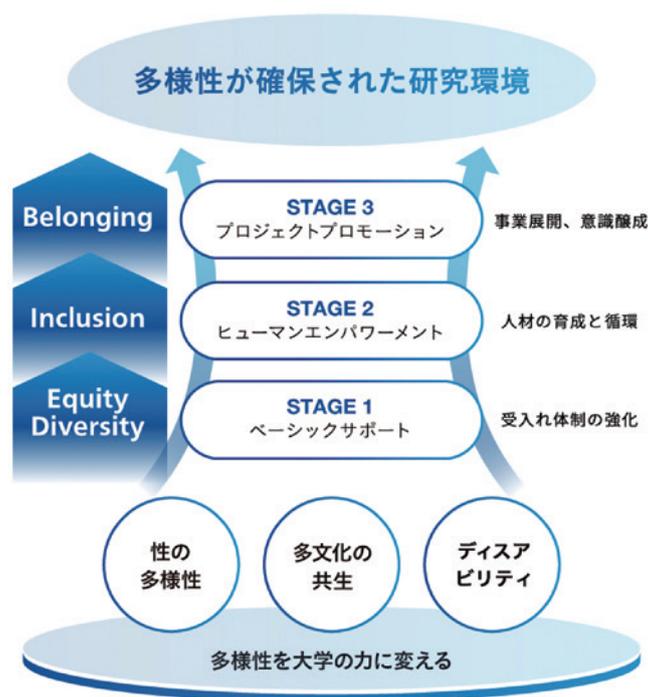


2025年4月7日に総長名で「京都大学DEIB推進宣言」を公表しました。この宣言は、本学のDiversity、Equity、Inclusion、Belongingの考え方を示したものです。本学は、自由の学風のもと、型にはまらない思考を尊重し、独創的な研究を生み出すことで、学問の発展に寄与してきました。宣言では、多様性の尊重は、この伝統の延長線上にあるものとして、大学にとっての成長と発展の原動力と位置付けています。特に、Belongingについては、京都大学を今よりさらに、自身のアイデンティティの一部として愛着と誇りをもてる共創的なコミュニティに深化させていくものと位置づけ、この理念をもとに、「多様性を力に変え、未来を拓く」ことを目指します。



DEIB KU ウェブサイト
<https://www.deib.cwr.kyoto-u.ac.jp/>

DEIBと3つのステージ



DEIB 推進宣言に基づき、性の多様性、多文化共生、ディスアビリティの重点領域において多様な人材を研究環境とライフサポートの両面で支える「ベーシックサポート」、人材の育成と循環を促進する「ヒューマンエンパワーメント」、本学の取組を基にした他機関への事業展開・社会への普及を目指す「プロジェクトプロモーション」の3つのステージに応じた取り組みを進めていきます。



女性研究者・学生の顕彰

「京都大学たちばな賞」や「京都大学久能賞」の授賞も、若い女性研究者の励みとなり、受賞者が後に学外の重要な賞を獲得するなど、確実なステップアップを実感しています。

また、2021年には、各方面でご活躍の京都大学出身の女性を対象に「京都大学このえ会」を設立してネットワーク構築を図り、女子学生・研究者への支援と女性活躍機会拡大や課題解決に取り組んでいます。



多様性に配慮した環境改善

誰もがより快適に過ごせるキャンパスを目指して、2025年度は、生理用ナプキンの無償提供や、施設部と協力して多様性に配慮したトイレの整備に取り組んでいます。

女子学生チャレンジプロジェクト

本事業は、女子学生がチームリーダーとなって、自らの好奇心や探求心を核とした新しい課題に挑み、メンバーと多様な視点から議論し協働するプロセスを通じて、研究の面白さを感じられるような活動を後押しします。

これまで、工学、医学をはじめ異分野の学生がチーム一丸となって、領域横断的でチャレンジングなテーマに取り組んできました。2025度は、31件の多岐にわたるテーマの応募があり、最終的に4件が採択されました。今年で3年目を迎えますが、プロジェクト終了後に企業との共同研究に発展した例や、広報誌などに取り上げた活動レポートが高校生へのアピールに繋がっているなど、事業の効果が年々大きくなっています。



2025年度「女子学生チャレンジプロジェクト」実施内容
<https://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/story/w-challenge/>



障害のある学生への支援 <https://www.assdr.kyoto-u.ac.jp/drc/>

京都大学において、学ぶことや研究することに障害（社会的障壁）が生じた時、どのような解決策や選択肢があるでしょうか。学生総合支援機構 障害学生支援部門（DRC）が、障害のある学生やその周囲の教職員、受験希望者の相談に応じています。専任スタッフが相談を受け、授業などでの合理的配慮の調整やノートテイク・移動介助等学生サポーターの派遣、AT（支援技術）の提供など、各種修学支援を行なっています。これらの活動が評価され、2023年9月5日、「障害者雇用優良事業所等京都府知事表彰」を受賞しました。



障害学生支援ガイドブック

京都大学における障害学生支援のシステムやDRCの紹介、各種障害に関する基礎的な知識・支援方法などを整理し、冊子として教職員に配布しています。実際に障害のある学生に対応する必要性が生じた場合には、その都度、個別に相談していくことになりますが、手がかりとして活用しています。

フリーアクセスマップ

DRCでは従来のものとは少し異なる視点で情報を表示する方法を考え、マップを作成し配布しています。本マップは、主に車椅子利用者などの移動困難者の目線で作成したもので、従来のように道筋や設備の使用を限定し指示するようなものではなく、目的地までのバリア（障壁）を適切に表示することで、自らのスキルに合わせて道筋などを選択できるような形式にし、ネーミングも「フリーアクセスマップ」としています。



障害のある学生の支援リソースリスト(京都市版)

障害のある学生は、大学等による修学支援に留まらず、生活支援など地域リソースを利用することが少なくありません。DRCでは生活に関する相談窓口、就労に関する相談窓口などの情報を集約し、「障害のある学生の支援リソースリスト/マップ」を作成しました。利用可能なリソースが様々ななかで、ご自身の状況にあった機関を見つける参考にいただけます。

上記のコンテンツは、DRCのウェブサイトでご覧いただけます。 <https://www.assdr.kyoto-u.ac.jp/drc/contents/>

